

劇でつたえる 保育シリーズ 年少 9月

「ひゃーびんごー!」 ～夏の思い出～

(上演時間 約20分)

作・清田明世

● 登場人物

まさる (年少)

ちよつと引つ込み思案な男の子。

ゆうき (年少)

まっすぐな性格の男の子。

げんたろう (年少)

面白くことが好きな男の子。何でもリズムや歌にする。

ちほ (年少)

ちよつとおませな、先進的な女の子。

さとみ (年少)

後ずさり気味だが、優しい女の子。

ナレーター

先生役

● 今回のテーマについて

年少の子どもたちにとって、初めての夏休みが終わりました。迎える再登園の日。やってくる子どもたちの表情はそれぞれです。初めて園生活に飛び込み、三カ月半幼稚園に通う毎日から、一か月半の長いお休み。子どもたちの受け止め方、リズムがやや乱れてしまうことは、仕方ありません。前向きな子もいれば、後ろ向きになる子もいるでしょう。5ヶ月前より明らかに、子どもたちは成長し、いろんな「と」を感じています。

久しぶりにお友だちに会うこと。過ごした夏の思い出。聞いてほしい。でも恥ずかしい。言いたい。でもちよつと迷う。うまく言葉に表せない。だけど態度にすぐ出てしまう。そんな子どもたちの微妙な姿を作品にしました。

お友だちに会えると、取り戻せるよね。

それぞれの夏を胸に、幼稚園や保育園が、子どもたちにとって、次の楽しみを見つけていく場所でありますように。

● 本シリーズの演じ方

本シリーズは、先生役であるナレーターが舞台袖に立ち、舞台上の演者(パネルシアターの場合はパネルの絵)に向かってコメントや指導をしていく演出になっています。観客である園児の反応を巻き込みながら、園児が共感をもって演者を見ることがポイントです。

身近なテーマを取り上げますので、実演形式で行う場合は、アドリブなどをきかせながら、普段の子どもたちの様子と重なるように気軽に演じていただけたらと思います。パネルシアター形式で行う場合は、事前に各園のルールに沿ったパネルの準備が必要となります。

ちほ

もう。何やってんのよ。

呆れて

ゆうき

だって、げんのヤツが逃げるから。

さとみ

げんたろうくん、おはよう。

げんたろう

・・・。

返事をしない

ちほ

おはよー!!

げんに向かって大声を出す

びっくりして、尻もちをつく、げん。

げんたろう

か、カンベンしてよ。ちほちゃん。

そのまま、座ったままです。

胡坐をかかか、膝を抱える。

ゆうき

げんたろう、おなかでもいたいのか？

げんたろう

ぼく、力がなくて…。

まさる

力が、でない？

げんたろう

はあ…。楽しかった夏が終わったなあ…って。

うなだれる

げんたろう

海もクラゲが出て、泳げないし。

さとみ

海行っただの!?

げんたろう

蝉もなくなかったし。

まさる

確かに、静かになってきたよね。

げんたろう

兄ちゃん学校に行つて、遊べなくなつたし。

ちほ

お姉ちゃんも、小学校はじまつた。

げんたろう

母ちゃんには、「早く寝ろ」「早く起きろ」って言われるし。

ゆうき

分かる、分かる。

大きく頷く